



今週の  
倫理

11/3 まいど！ 倫の号です。・久し振りの雨ですネ。全国の神様が  
この出雲の国にいらしゃる。旧暦の11/3~12/3だろぞ、目には見えない縁  
をどうするかだぞぞぞ。目には見えないから大切なんだぞ。

2013. 11. 2~11. 8

道徳と倫理の違、善い、苦難を受け入るか  
この頃少し分ったやうな気がする、苦難から逃げず  
受け入って実践にみよはいかかぞぞ

845号

幸せ運ぶアホ、鳥

倫理運動がスタートしたのは、戦後まもなくです。戦後の混乱の中、丸山敏雄が訴えた  
純粹倫理の生活法則とは、どのようなものだ  
ったのでしょうか。それは「守れば幸福になり、  
はずればきつと不幸になる」という、新しい  
絶対倫理を打ち立てることでした。

ここでは、「新しい」「絶対倫理」と表現し  
ています。新しいとは、それまで常識とされ  
ていた道徳や倫理と比べての表現です。  
一般的な道徳の致命的な欠陥は、「道徳と  
不幸が必ずしも一致しない」ことでした。  
正直者が必ず幸福に暮らせるとは限らない。  
守っても、実際の生活上の効果はわかりづら  
い。むしろ守ると損をすることもある——そ  
れでは誰も守ろうとはしないでしょう。  
そのような道徳・倫理とは一線を画す意味  
で、純粹倫理は「新しく」と表現されました。  
そして、実行すれば必ず幸せになれるとい  
う点で「絶対倫理」とも呼ばれました。  
純粹倫理を実証する過程において、丸山敏  
雄は、科学と同様「実験」によって証明して  
いく手法をとりました。

実験とは、実際にやってみることで、そ  
の実験による研究の手がかりとしたものが  
「苦難」です。病気や災難、家族の関係、対  
人問題、経営不振など、人生の中でさまざま  
に起こる苦難があるからこそ、正しい倫理  
(みち) がはっきりわかるというのです。  
ここに苦難に見舞われた人がいるとしよう。研究  
者は、邪念妄想なき心境でその人が受けている苦難



絵・今谷 鉄柱

## まず一步、踏み出さ なければ始まらない

の原因を直感し、これを相手に告げる。相手は、指  
摘された原因を除くための実践に素直に取り組む。  
その結果、苦難は解決する(かどうか)、という実  
験である。 『丸山敏雄伝』

倫理研究所が発行する『新世』には、毎月  
二本の「体験記」が寄稿されます。体験とは、  
苦難を機に実際に倫理を実践してみて、それ  
でどうなったのか、という生きた報告です。  
たとえば、十二月号には熊本県で菊栽培業  
を営むMさんの体験が掲載されています。

Mさんは菊の栽培が軌道に乗らず、精神的  
にも経済的にも厳しい状況に追い込まれて  
いる中で、純粹倫理と出合いました。先に倫  
理を学んでいた妻に勧められて講習を受講  
し、「自分も実践すれば何か変わるかもしれ  
ない」と、一步を踏み出しました。

親を喜ばせることを一番に考え、実際に行  
動に移していったところ、少しずつ心の中  
もやが晴れていきました。妻の名前を呼んで  
挨拶を交わし、夫婦で公衆トイレの清掃にも  
取り組みました。

〈家族みんなが健康で協力してくるから  
この仕事ができる〉と、感謝の思いが深まる  
中で、Mさんの菊は品評会で最優秀賞を獲得  
したので。気がつけば、仕事そのものを天  
職だと思えるようになっていました。

ポイントは、理屈ではなく実際にやってみ  
ることです。実験してみることで、苦難が  
転じて福となす生活の法則を、皆さんも実験  
されてはいかがでしょう。